

第7号

2013年12月9日
(平成25年12月9日)

ソムリエの風

特定非営利活動法人
奈良まほろばソムリエの会会報紙

発行 特定非営利活動法人
奈良まほろばソムリエの会
広報グループ
〒630-8333 奈良市中新屋町
23番地 中江ビル302号室
あすなろ行政書士事務所内

新しい企画が続々！！

企画委員会が発足

NPO法によれば、NPO法人は「市民が自由に行う社会貢献活動」により、「不特定かつ多数のもの」の利益の増進に寄与することを目的とするとあります。

当会はNPO化以降、理事による「企画委員会」をスタートさせ、対外的な活動に関する企画・立案を行っています。以下、最近の事例の一部を紹介します。

奈良まほろば館で連続講座



東京・日本橋三越前の「奈良まほろば館」において、「まほろばソムリエの深イ奈良講座」を定期的に開催しています。

初回の10月12日(土)には「90分でわかる天誅組」(担当:鉄田)という講話を行い、約30名の方が参加され、その模様が産経新聞と奈良新聞で紹介されました。

12月8日(日)には、鈴木理事が「平城山の史跡散歩」という講話を実施。以後、隔月での開催を予定しています。



奈良検定講座



啓発グループのメンバーが中心となって、奈良と東京で奈良検定講座を開催しました。

奈良はクラブツーリズム奈良旅行センターで9月29日(日)と10月27日(日)にそれぞれ1級と2級の「必勝講座」、東京は奈良まほろば館で10月5日(土)と11月2日(土)に「奈良まほろばソムリエ講座」を実施しました。

Power Point 入門講座

2月のNPO化以降、当会にはたくさんの講演依頼が舞い込んでいます。一般市民向けの講演ではプレゼンテーション用のソフトである「Power Point」の使用を求められるケースが多くなっています。そこで10月14日(月・祝)、奈良県立図書情報館で入門



講座を開催しました。

ご好評いただきましたので、今後はパソコンの入門講座や、プレゼンテーションの方法に関する講座の開催も検討しています。

「奈良本」の監修

近刊の『奈良「地理・地名・地図」の謎』(実業之日本社刊)の監修の依頼があり、産経コラムの執筆者や広報グループのメンバーが中心となり、分担して取り組んでいます。

刊行されましたら、当会としても販売に協力したいと思いますので、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

インプットより「アウトプット」

当会の各活動グループの動きを拝見していると、まだまだ友の会時代と同様の「インプット」(自己研鑽など)の活動が多いように感じます。

冒頭に書きましたように、NPO法人に求められているのは社会貢献という「アウトプット」の活動です。

皆さんの知識や経験をフルに発揮し、「社会に対してどんな貢献ができるか」を考え、行動していただきたいと思います。

(専務理事 鉄田 憲男)



グループ活動紹介

■公民館活動

こつこつと公民館講座活動を続けてきましたが、今春のグループ再編を機に本格的に動き出しました。

奈良市の中部公民館では、第二、第四土曜日に活動し、主に奈良検定の各級合格を目指す方達が驚くほど熱心に受講されています。



過去の検定問題を題材に、人物、出来事、社寺、古墳、記紀、万葉集、産業など各分野の内容を検証し、なぜこの答が正解なのか、なぜ間違いなのかを、我々講師陣の

出来る範囲ではありますが、掘り下げた講座をしています。

もう少しやんわり奈良を知りたい方向けには、「もっと奈良を楽しむ講座」を、第二金曜日に若草公民館、第四水曜日に西部公民館で開催しています。



若草公民館ではテーマ決めの講座とし、7月は私の落語「鹿政談」一席と前田康一の「鹿」の話を行い、8月には大仏鉄道研究会の三宅学さんをゲスト講師に迎え、「大仏鉄道」について丁寧に解説して頂きました。また、9月

は永井宏子が「謡曲と奈良」を、10月は沢田れんげが「百人一首と奈良」をテーマに講座を開催し、いずれも解りやすく好評でした。

西部公民館では、鈴木浩、青木章二、木原良子、小田久美子の担当で、「奈良検定の問題」を題材に、講義を聞けば、そこに行ってみたくなる、もっと知りたくなる講座を行い、毎回満員の大好評です。

さらに10月からは橿原市中央公民館でも、第一、第三土曜日に歴史講座を開催しています。受講者4名からのスタートです。皆様のお知り合いで受講希望者おられましたら是非ご紹介ください。

各講座は総て午前10時から約2時間です。講師も随時募集中、ご応募お待ちしております。

(リーダー西川 誠)

makoto.4489@kuc.biglobe.ne.jp

■ガイドグループ 広がる活動の内容

お客様の行きたい日に行きたいコースをガイドする『自主ツアー』は、この秋、30組(350名)を超える申し込みがありました。少人数から30名以上の団体まで様々なお客様で、嬉しいことにリーダーも何組もありました。



募集ツアー(山の辺の道)の
ガイド風景

日程を決めて参加者を募集する『募集ツアー』は、11月17日に「山の辺の道」で初めて行ない、約70名の参加者がありました。

また、旅行会社等からの依頼による『受託ツアー』は、采女祭りの解説や高取城ガイドなどに対応しました。12月からはJTBの「世界遺産巡りバスツアー」を担当し、興福寺・唐招提寺・法隆寺を巡ります。3月まで25回実施し、県外のお客様が700名以上参加される予定です。「ソムリエ・ガイド」の知名度を上げる絶好の機会ですので、最高の「オモテナシ」をしたいと思います。



本当のソムリエ・ガイドを 目指して

活動は広がっても、まだまだ課題があります。ソムリエということで、知っていることを沢山話しがちですが、「お客様の好みに合わせて楽しんで頂くこと」が本当のソムリエ・ガイドです。そのため、時間配分やお客様の安全への「目配り」と、お客様を満足させる「気配り」が必要です。

グループ運営の強化も重要な課題です。専門スタッフがいない以上は、メンバー全員が運営を分担することが不可欠です。

来年もメンバーが心一つにして、楽しくグループ活動を進めたいと思います。(安井 永)

会員紹介



中村さん 前防さん 栗田さん

再会 1

親子、夫婦のソムリエに次いで、教師と教え子のソムリエの組合せは、私たち以外にもあるはずです。ただ、私の場合は教え子が2人もいて、彼らは、生まれも、育ちも大阪と云う「浪速っ子」が、ソムリエになったことです。

栗田正穂さんは大阪市立南中学で三年生の時クラス担任をし

ました。当時の南中学は今のアメリカ村の真中にあり、心齋橋、戎橋、道頓堀など南の繁華街が主な校区でした。彼女のお宅も道頓堀筋にあり、上品で大人しいが芯の確りした、いわゆる「船場の糸さん」というのが彼女の印象でした。ソムリエの講習会や試験会場でも再会していましたが、その後、第一回交流会の「山の辺の道(北)」に参加し、弘仁寺で互いにソムリエとなって最初に再会しました。

再会 2

栗田さんの卒業と同時に私は東成区の相生中学へと転勤となり、そこで一年生の中村茂一君のクラス担任となりました。そのク

ラスには彼ともう一人、成績の優秀な女子生徒がいて、いつも二人で学年のトップ争いをしていたことが担任の誇りでした。

その年の終わりに私は大阪府立高等学校へ転勤になったので、彼とソムリエの総会で四十年振りに再会した時はあの可愛い少年がこんなおっさん(失礼)に変身したとは思われず、思い出すまでに幾分時間がかかりました。

栗田さんは交流グループなどで、中村君はこの「ソムリエの風」の編集にと、それぞれの分野で教え子が活躍してくれることは元担任として非常に喜ばしいことです。
(前防 道德)

それぞれの万葉集

■藤原夫人

天皇の藤原夫人に賜へる御歌一首
103

わが里に大雪降りり大原の古りに
し里に落^らま^くは後^の

(うちの方では雪が沢山降りましたよ。でも大原は田舎だから、もつと後で降るんだね。)

藤原夫人の和^{こた}へ奉れる歌一首
104

わが岡の霙^{あかみ}に言ひて落^らしめ
し雪の摧^くけし其処に散りけむ

(仰いますね。私がうちの龍神に頼んで降らして貰った雪の一片が其処に散ったのよね。)

自ら「明神^{あらかみ}」である倭根子天皇^{やまとねこすめらみこと}と称した天武天皇は、鎌足の女2人を夫人^{ぶにん}(后、妃に次ぐ身分)とした。姉を氷上娘^{ひかみのいらつめ}、妹を五百重娘^{いほへのいら}

つめ)と言うが、万葉集では共に藤原夫人である。上記は、よく知られた歌である。この藤原夫人は氷上娘とされることもあるが、五百重娘とするのが妥当である。姉は氷上大刀自^{おほとじ}、妹は大原大刀自と字され、夫々宮中と大原の実家に分れて暮らしていたらしい。飛鳥坐神社後方の鎌足生誕の地とされる丘陵が大原で、今の字名は小原^{おうはら}である。冒頭の歌はお互いを理解した上での戯れの掛合いであるが、漢文と万葉仮名を駆使しながら、ともに稚気と才気を押さえ兼ねている感がある。因みに雪は瑞祥であるから、降り方の優劣が問題になる。

五百重娘は新田部親王の母であり、後年兄の不比等に嫁し麻呂をもうける。後世これを不倫という

が、どんなものだろう。その才気と奔放さこそ天武の気に入っていたところだろうから。

最後にもう一人の藤原夫人の歌を紹介しよう。対照的な心境に心が痛むようだ。

藤原夫人の歌一首 4479

朝夕^{あさよひ}に哭^なのみし泣けば焼
大刀^{やまたち}の利心^{とごころ}も我は思ひ
かねつも

※読み下しは、中西進『万葉集』(講談社文庫)による。



(田中 昌弘)

私のおすすめレアスポット

■ちょっと怖い話

神社にまつわるちょっと怖い話です。丑の刻参りをご存知かと思えます。実は生駒市の観光ボランティアガイドを始めたことから、生駒山の東の麓に位置する式内大社である往馬大社（正式名は往馬坐伊古麻都比古神社）の丑の刻参りの風習を耳にしました。

丑の刻ですから午前2時から3時の間でしょう。往馬大社の正面から本殿へ上がる石段途中の踊り場から、上へ3段目の石は切れ目がない一枚石。ここで頭に鉢巻き、蠟燭を立て、火を点けた。そして左側の樹木に憎い相手に見立てた

藁人形をくくり五寸釘を打ち込んだ。この切れ目のない一枚石に牛が座っており、「そのようなお参りは止めなさい。これより上へ行くことはできません」と丑の刻参りにきた人に諭したといひます。

楼門の上に牛の奉納額が掲げられています。本殿の前にご神木とされている大きな杉があります。この大木に紙で人に見立てた人形を置き、釘をさす呪術が昭和の中ごろまでは行われていたということも氏子の方から聞きました。呪詛や怨霊の祟りなどは今の時代では一笑に付されますが、当時では現実として存在していたのでし

う。

有名な火祭りを始めとし幾多の例祭で賑やかな往馬大社にもこんなミステリアスな風習や伝承があるのも意外でした。訪ねる度にいつもと変わらぬ古社の神々しい厳かな雰囲気を実感しています。

（津山 進）



往馬大社

私のベスト3・祭編

昨年、皆さんから投票いただいた結果です。ご協力ありがとうございました。※あくまでも個人のご意見です。

	祭	おすすめポイント、感想等
第1位	東大寺二月堂修二会	たいまつあとの夜遅くの内陣での声明／「不退の行法」として続けられている／大和に春がやってきます／たいまつが素晴らしい
第2位	春日若宮おん祭	870年も続く奈良を代表する祭り／お渡り式、お旅所祭など見どころが多い／日本の芸能のルーツ／多くの歴史的芸能を堪能
第3位	當麻寺練供養会式	極楽浄土への仏教説話の様子／救い仏を先頭に25菩薩が特設舞台の上を中将姫を迎えに行く行列は壮観である

<編集後記>

ソムリエの風第7号、いかがでしたでしょうか？今回はかなり盛りだくさんの記事になりました。次号以降も楽しみにお待ちください。

編集に当たった広報グループメンバーは以下のとおりです。（あいうえお順）

窪田・小林(誠)・雑賀・沢田・豊田(敏)・辰馬・永井・中村・橋口・廣岡・二上・古川・増戸・松森・米山



特定非営利活動法人 奈良まほろばソムリエの会

事務所所在地：〒630-8333 奈良市中新屋町23番地 中江ビル302号室

あすなる行政書士事務所内

ホームページ：<http://stomo.jp/>

メールアドレス：info@stomo.jp

つれづれ日記（ブログ）：<http://nara-stomo.seesaa.net/>



HPのQRコード